

令和五年第三回議会定例会一般質問

「ホタテ養殖残さ処分について」

田中大

町内に早く処理施設を建設するべきだ

養殖ホタテの生産量が多い地域だからこそその問題で、当町の漁業者は悩まされております。当町の基幹産業であるホタテ養殖に伴う残さ処分は、長年の課題となっております。ホタテ養殖の過程では、ホタテの稚貝をネットに入れて海中で飼育します。その際、ネットに付着する小さな貝などが、残さとなって大量に出てしまいます。水産廃棄物である残さは、処理に大きなコストがかかります。しかも、残さが腐敗すると放つ悪臭も問題になっています。

令和元年度からの当町における残さ処理数量を調べたところ、令和元年度が約1,710トン。その後、徐々ではありますが、増加傾向にあります。また、処理費及び運搬費は、燃料費高騰も影響しているためなのか、増加傾向にあります。

今年度の残さ処分量は、漁業関係者等から聞くところによれば、今までにないくらいとても多いとの事で、過去最高の残さ処分量が予想されます。今後、運送料も高騰傾向にあることから、運搬費も右肩上がりになることが、予想されます。

町の基幹産業・主要産業であるホタテ養殖に伴う残さ処分、特に漁業者が排出する一般廃棄物である残さ処分については、町がその処理について責任を持つ必要があります。さらに燃料費高騰が続く中、運搬費を安く済ませる為にも、町内に町直営であれ民間委託であれ処理施設建設が必要と考えます。

また、ホタテ加工業者が排出するウロは産業廃棄物となりますが、数年前までは口広地区に処理施設がありました。その施設では多い時で年間4,000トン超のウロを処分していたとのことですが、その処理施設も、残念ながら閉鎖となってしまう、数少ない地元住民の雇用の方が喪失しました。

平内町で、一般廃棄物残さのみならず産業廃棄物残さ処理施設を建設し、町内並びに県内の残さ処理を受け入れることとすれば、雇用も生まれ、収入増となり、事業として成立することとなるでしょう。現在、処分受け入れをしている、大平洋金属、いわて県北クリーン、青森クリーンもいつ受け入れを中止するか不透明であります。これには物流の2024年問題も関連して物流のコスト上昇に伴い、モノが運べなくなる可能性も危惧されます。

漁業者が排出する残さの現状に目を向けてみると、現在、茂浦地区の残さ仮置き施設がございますが、風向きによっては、地域の方も我慢できないほど臭いがきついの事です。町内に処理施設があれば、仮置き期間は短縮され、悪臭対策にもなります。

また、茂浦地区のみならず各漁協支所の残さ仮置き場周辺は、通年悪臭が酷い状況です。県道夏泊公園線、国道4号線を走行中、やはり仮置き場周辺は車内にも悪臭が入ってきます。観光、ドライブ・ツーリング中の皆さんはどのように感じていることでしょうか。

町では昨年4月に観光面のテコ入れとして、夏泊半島の大島に「オーシャンビュー夏泊崎」の看板とともに、性の多様性にも配慮した「みんなのトイレ」を新たに整備しましたが、途中の海岸線に悪臭が漂っては、観光資源の効果も半減するのではないのでしょうか。

このような状況の中、観光客ではない実際に現地に居住し、ホタテ養殖を生業としている漁業者の方々に、「町に何を要望したいですか?」と聞き取り調査したところ、1位は「残さ処理施設を何とか」ということでした。平成29年6月の三共刃型

による公開実験、また、昨年1月には、三共刃型を含めた数社による事業説明会は実施されたものの、全く進捗が見えません。漁業者の方々からは、「例の町長肝いりの三共刃型は、どうなっているのか?今も関係は続いているのか?」との声も多数寄せられております。

町の基幹産業であるホタテ養殖漁業を持続させるために、先ずは一般廃棄物処理施設を町内に建設することは必須であると考えます。

そこで、町の現状や今後の見通しについて具体的なロードマップを明示くださるようお願いするとともに、三共刃型との現時点での関係をお伺いします。

町 長

施設整備に取り組んでいく

当町で発生している令和4年度の養殖残さは約2,500トンで令和3年度より約1,000トンほど少なくなっております。これは、養殖籠に付着する海洋生物の発生が少なかったほかに国庫補助事業を活用しての洋上洗浄機の導入が効果を上げていると思われる。

ホタテガイの養殖残さは養殖過程において発生し、地球温暖化の影響と養殖形態の変化から近年大きな課題となってきました。特に平成10年以降、養殖残さが事業系の一般廃棄物とされたことを受け、町と漁協が協力して処分する方法を検討し、平成12年に『町廃棄物処理施設』を建設して焼却処分をしてきました。しかし、10年を経過した平成24年頃から、焼却炉の修繕費が急増したことに加えて、燃料費も高騰し運営経費が増大したため、平成27年から29年に県内、平成30年から県外の事業者にも処分を委託しております。

町では、県境を越えた一般廃棄物の処理は一時避難的なもので、できるだけ早い時期に町内で処理できる施設が必要であると以前にも答弁しております。

これまで、『ホタテ残さ処理施設』については、三共刃型工業株式会社がバイオ処理という提案のほかに、令和4年1月に『町水産業系廃棄物処理勉強会』を開催し、1大学、6社から提案いただきました。その後も三共刃型工業については、同社が町内に工場を建て、残さ処理と貝殻リサイクル事業を行いたいと当町を訪れていますが、今のところ進展はございません。

残さ処理については、これまで『青森圏域重点事業に関する要望』の最重点要望項目として県に対し要望しており、県からホタテ残さ処理に関する指導や情報等のご教授を受け、また、処理施設建設にむけて検討する組織の立ち上げも視野に入れながら、町の基幹産業であるホタテ養殖を安定して未永く続けるための施設整備と、夏泊半島に多くの観光客が来ていただくため環境整備に取り組んで参りたい。

田中大

スケジュールも示せず、残念だ

町長の残さ処分に対する答弁の中で、令和4年度の養殖残さが減少していることの理由の一つとして洋上洗浄機の導入を理由に挙げておられました。それはそれで良いことと考えますが、肝心の残さ処分場の整備に向けた具体的スケジュールが示されておられません。

率直に申し上げて、本当に漁業者と、処分場を早急に整備する必要があるという危機感を共有されておられるのだろうかという感想です。非常に残念です。

平内町
議会議員

田中だい通信

さらに前進！明日に取り組む！未来を創る！

夢も希望も大！

スローガンのもとでさらに前進！

田中だい新たな挑戦へ向け、本誌28号にて休刊となります。

今後取り組みや町制・暮らしのことを様々な形でご報告いたします！

目 次

1.町老人クラブ連合会 設立60周年

おめでとうございます

2.軽スポーツ『モルック』体験

3.洋上風力発電事業説明会

4.藤沢町内会の皆様 お疲れ様でございました

5.生涯学習について調査

6.経済ジャーナリスト『須田慎一郎』先生

7.県外視察（北海道森町・北海道余市観光協会）

8.議会一般質問「ホタテ養殖残さ処分について」

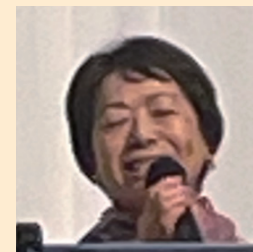
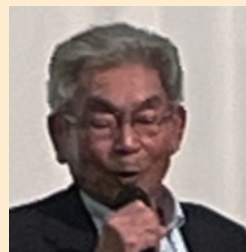
町老人クラブ連合会 設立60周年おめでとうございます

7月6日「平内町老人クラブ連合会 設立60周年記念式典及び祝賀会」が開催され、お招きいただきました。会員120名以上の参加のもと、盛大に開催されました。

記念講演では、老人クラブの課題について、聞くことができました。

老人クラブの皆さん、本当にお元氣ですね。個々に様々なご意見を聞かせていただき、情報収集させていただきました。

今回の行事で思い感じたことや、いただいたご意見をもとに町政に励んでまいります。



町政へのアイデア、ご提案、ご要望募集中！

皆様から頂いたお声は、議会での質疑や担当課へ直接要望するなど、責任をもって町へ届けます！

電話 017-763-0170 FAX 017-755-4295 携帯 090-3125-8752

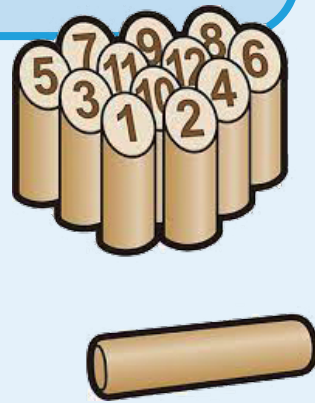
メール tanakada_0525@yahoo.co.jp

軽スポーツ『モルック』体験

7月20日、『郡町村議会議員健康管理セミナー』が開催され、老若男女問わず気軽に楽しめる『モルック』という軽スポーツを体験しました。モルックはフィンランド生まれの老若男女問わず気軽に楽しめる軽スポーツで、モルックと呼ばれる木の棒を投げて、スキttlと呼ばれる数字が書かれた木の棒を倒して点を取っていくゲームです。

モルックは、初の体験でしたが、とても楽しいスポーツでした。

町教育委員会でも、モルックの競技セットを貸し出しするそうです。町内会、子供会、老人クラブ等で楽しんでみてはいかがでしょうか。詳しくは、私にお問い合わせください。



洋上風力発電事業説明会

6月23日、町議会に対し「陸奥湾（横浜・野辺地沖）洋上風力発電事業説明会」が開催されました。

説明をうけ、事業は、横浜・野辺地沖ということもあり、景観・自然への影響・漁業への影響は、さほど少ないと認識しました。

今後も情報を取りながら、自然・漁業への影響は本当に少ないのか、さぐってまいります。町民の皆様も、ご意見ございましたら、お聞かせください。



生涯学習について調査

7月21日、町生涯学習について調査いたしました。例えば、ふれあい出前講座、フラワーロード、ひらないカレッジ、放課後子ども教室、ひらないジョブタウンなどです。

私なりに意見を述べさせていただきましたが、議員間、議員と行政においても認識のズレがあります。町民と行政との間のズレは良く見かけますが、『ズレ』は最小限に抑える必要があります。解消法は、『対話』のみです。

これからも、町民に耳を傾け、対話を心掛けてまいります。



経済ジャーナリスト『須田慎一郎』先生

7月19日『県下町村議会議員研修会』が開催され、ジャーナリスト須田慎一郎先生のご講演を聞いてまいりました。

過去を振り返り、永田町の裏話を聞かせていただきました。

『これから』を語るため、過去を知る必要があることは歴史が物語っています。

今回もしっかり学ばせていただきました。過去を知り、未来に向かって邁進する所存です。



県外視察

①北海道森町

7月31日、北海道森町に「ホタテガイ養殖の現状と課題について」ということで視察に行ってきました。最大の課題は、養殖残さ処分との事です。森町では、残さを肥料として販売しておりますが、課題が山積み、行き詰まっているようです。平内町でも、今後残さをどう処分していくのか、急がなければなりません。



②北海道余市観光協会

8月1日、NHK連続テレビ小説マッサンの舞台となった、北海道余市町の観光協会に視察に行ってきました。「余市町の観光地域づくりについて」ということで、観光協会の会長、事務局長にお話を伺いました。やはり、観光協会は独立して法人化する必要があります。法人化後の課題は当たり前。それを乗り越えてこそ、法人が独り立ちしていくのだと考えます。



藤沢町内会の皆様 お疲れ様でございました

7月9日『平内町藤沢地区&新郷村川代地区交流会』が開催されました。午前中はパークゴルフ、午後は懇親会と盛大に開催されました。

藤沢町内会の皆様、本当に準備から運営と本当にお疲れ様でございました。

私もお招きいただき、楽しく参加させていただきました。

両地区の交流が始まり8年目、交流会は4回目と伺っております。

交流がきっかけで『直売所ふんちゃ』も事業化されたと認識しております。

両地区におかれましては、未永きお付き合いをご祈念申し上げます。私も自主的に一助したいと考えております。

